

宇都宮市学校教育推進懇談会（会議録）

日 時 平成20年7月8日（火） 15：00～

場 所 市役所13階 教育委員室

出席者（敬称略）

1 懇談会委員

木村 寛，山田 葉子，小野口睦子，佐々木英明，渡部 修三，地神 久郎，
伊藤三千代，植田 俊夫，島田 好正，村上 雅之，富田 友子

2 事務局

伊藤教育長，高井教育次長，鈴木教育監
教育企画課 篠塚課長，佐々木主幹，原口指導主事
学校管理課 伊沢課長
学校教育課 水越副参事兼課長，菊池課長補佐，小堀係長，桑川係長，
影山副主幹・指導主事，黒田指導主事
学校健康課 片桐課長，大島課長補佐，小花係長，樽井副主幹・指導主事，
関指導主事
生涯学習課 高橋課長
教育センター 久保所長，大瀧係長

内 容

開 会 （全体進行：菊池補佐）

1 教育長あいさつ

2 委員紹介 資料名簿順に自己紹介

木村会長あいさつ：懇談会2年目ということであり，率直でアットホームな話し合いとしたい。

「“いきいき学校”プラン」や「学校教育スタンダード」などが，どのように推進され，今後，どのような方向性が検討されているのか，この懇談会でしっかりとした話し合いができ，展望がもてればと思う。

3 議 題 （協議進行：木村会長）

- ・木村会長：本会議の公開について，事務局から説明願いたい。
- ・事務局：本会議及び会議記録は，以前決定したとおり公開とする。

(1) 平成19年度における「宇都宮市学校教育推進計画（“いきいき学校”プラン）」の推進状況について

- ・木村会長：昨年度の推進状況と今後の取組について事務局から説明願いたい。

[施策の柱 1] ・事務局から説明

- ・木村会長 : 指標について, は達成状況が良好なもの, は十分でないものとの説明であった。
- ・地神委員 : 社会体験学習を行っており, 成果をあげていると思うが, 受け入れ先での対応が大変ではないか。生徒の動機付けが長く続くよう, 企業と連携を図ってほしい。
- ・事務局(紉) : 生徒の体験後の反省など見ると, とてもよかったという声がある中, 体験場所が第1希望にならないという意見もある。子どもたちのニーズに合った体験場所を広く確保できるよう, 引き続き, 関係機関への協力を依頼していく。
- ・富田委員 : 5日間連続して受け入れてくれる事業所は多くはない。本校では, 3日と2日に分けて行っている。何をしたらよいかかわからない生徒も見られる。地域の中で子どもたちを育てたいという希望もある。子どもたちのために学校, 家庭, 地域が一体となって取り組んでいかなければならない。行政はよくやってくれている。
- ・伊藤委員 : 親としては, 自分の将来を考えた職種を体験して欲しいと思う。最近目的がずれている子が増えているような気がする。
- ・富田委員 : 職種・ジャンルで分け, 事業所を決めている。
- ・伊藤委員 : 生徒が, 受け入れ先に電話をするのか。
- ・富田委員 : 本校では, 先生が電話をかけている。キャリア教育の一環として, 生徒が大人の世界を体験できればよいと考えている。
- ・伊藤委員 : 子どもたちが将来の目的を持ってほしいという願いがある。
- ・富田委員 : 子どもの希望も大切だが, 望ましい勤労観, 職業観を育てるためには, 大人が真摯な態度で仕事をしている姿勢や空気を学ぶことも必要である。
- ・伊藤委員 : 生徒が, 大人の真剣な姿を目の当たりにすることは大切である。
- ・木村会長 : 企業が, 学校に来てくれる機会はあるのか。
- ・富田委員 : 宇都宮商工会議所青年部を招いて「おもてなし講座」を実施するとともに, 金融教育アドバイザーなどとしても協力いただいている。年間18講座を実施している。
- ・村上委員 : 小学校では, 総合的な学習の時間での学習活動に協力いただいている。
- ・島田委員 : 学習内容定着度調査を見ると, 定着度は上がっているが, 家庭で学習する時間の増加という背景があって定着度が上がったのか, 学校での指導によって上がったのかが分かるとよい。
- ・事務局(紉) : 学校では, 定着度の低い学習内容について, 朝の学習や習熟度別学習で補充したり, 保護者会で実態を説明し, 家庭と連携した家庭学習の充実を図ったりしている。

- ・山田委員 : 携帯電話, インターネットの活用がいじめなどにつながっている
るので, 家庭と連携を取って欲しい。
- ・木村会長 : 携帯電話や家庭との連携については, これからの協議でも触れ
ることとしたい。

[施策の柱 2] ・事務局から説明

- ・木村会長 : 個人的には, この部分がとても重要だと思う。
- ・伊藤委員 : いじめがもとで, 不登校になる人数は, 宇都宮市ではどの程度
いるのか。
- ・事務局(大) : 平成19年度のデータでは, いじめが原因で不登校になったの
は, 小学校で1.3%, 中学校で4.1%, 不登校が継続している中
で原因がいじめは, 小学校で0.7%, 中学校で0.6%, 不登校の
きっかけが友人の場合は, 小学校で7.8%, 中学校で16.9%。
- ・事務局(小) : 説明したデータは, データ集のP19に掲載している。
- ・渡部委員 : いじめの件数のカウントの仕方は。
- ・事務局(小) : 以前は「自分より弱い者に対して, 一方的に身体的心理的な攻
撃を継続的に加え, 相手が深刻な苦痛を感じているもの」として
いたが, 平成18年度の調査から変更になり「当該児童生徒が,
一定の人間関係にある者から心理的・物理的な攻撃を受けたこと
から, 精神的肉体的苦痛を感じているもの」となり, 日記など普
段の生活の様子等から学校が判断し報告している。資料1 - に
定義の変更を記載した。
- ・教育監 : 本人がいじめられたと思ったらカウントするというように, 子
どもの側に立った考えで行われている。
- ・渡部委員 : 学校として教師がカウントすることだが, より一層いじめ
を認識しようとしているのか。あるいは, 隠そうとしているのか。
- ・富田委員 : 生徒にアンケートを取っており, 自己申告である。
- ・渡部委員 : アンケートは無記名か。
- ・富田委員 : 無記名だが, 実態を把握し指導に活かせるよう工夫している。
- ・教育監 : 年4回程度行っている実態がある。
- ・村上委員 : 学校では, 定期的に教育相談も行っている。
- ・事務局(水) : 「いじめゼロ運動」は, 解消率を100%にすることを目指し
ている。Q-U調査により実態を把握し, 5・10月をいじめ強
調月間とし児童会・生徒会がスローガンを掲げるなどして, 取り
組んでいる。
- ・小野口委員 : コミュニケーションがうまく取れていればよいが, アンケート
に書いてもうまく言えない子どももいるのではないかと。

- ・富田委員：授業の様子や生活ノートなど，多様な方法で継続して観察することにより，生徒の状況が把握できるよう努めている。
- ・小野口委員：言葉がきつい短大生に対しては，実習の前の事前指導で指導するが，十分に改善されないまま，実習に出してしまうことがある。短大の先生の指導が悪いと言われるが，人柄や言葉遣いなどは，小さい頃からの指導が積み重ねられていくものであり，小さい頃からの指導が大切である。
- ・富田委員：心がなごむ音楽を聴くなど，環境づくりも大切である。
- ・地神委員：道徳の教育方針などは，どのようになっているのか。
- ・事務局(駈)：教育課程全体を通して道徳教育を行い，その中心として道徳の授業を位置付け道徳性の育成を図っている。本市では，平成19年12月に「宮っ子の誓い」を策定し，学校でも「宮っ子の誓い」に基づく指導の充実に取り組んでいる。
- ・地神委員：心の教育は，極めて大切なので，重点施策・事業の「心を育む教育活動推進事業の展開」は，継続ではなく，拡充にして取り組んでほしい。ボランティアで地域の人と触れ合うなど，時間的に難しいと思うが。
- ・事務局(紉)：継続を拡充に変更する。

[施策の柱3] ・事務局から説明

- ・木村会長：私の個人的な考えとしては，これは家庭の問題かと思うが。
- ・地神委員：夜遅くまで働いている保護者，母子・父子家庭も増えている中，「お弁当の日」の実施には，困難な面もあるのではないかと。
- ・事務局(樽井)：各学校の状況に応じて，おにぎりやパンなどの主食だけを持ってくるものも取組の一つと考えている。お弁当の中身が，自分の健康に応じたものになるよう，給食指導と併せて行っていきたい。
- ・富田委員：「お弁当の日」のとらえ方は，家庭の負担が少なく，全生徒が無理なく取り組めるよう，学校給食を最大限活用する。必要な知識として，食事の分量，栄養のバランス，おかずの組み合わせの仕方，調理法の理解を深めることなどである。本校の取組は，
1 回目は，生徒が，空の弁当箱に給食をつめ，給食の量のイメージをつかむ。
2 回目は，給食の中から，さらに必要な栄養素は何かを探る。
3 回目は，必要な栄養素を補う追加料理のレシピを検討する。
4 回目は，追加する料理を弁当箱に入れて持ってくる。
- ・木村会長：学校での「食育」に関する取組の様子が分かってきた。
- ・富田委員：本校では，バイキング給食も行っている。

- ・小野口委員：地産地消を城山地区の小学校では盛んにやっていると聞くが、中学校でもやっているのか。
- ・富田委員：生徒が実際に、地産地消を行っている。
- ・佐々木委員：食と教育が結びつけられているのを感じる。
- ・上田委員：食育の目指すところは。
- ・事務局(樽井)：料理ができるとか、栄養を考えると、バランスを考えるなどの知識・技能面、また、家庭で子どもに何が好きか、どんなお弁当にするかを話題にし、子どもと一緒に食材を買いに行くなどの家庭における心と心のつながりなどを目指している。第3日曜は家庭の日、地産地消の日。高校生になれば、自分で食事をつくれるよう、9年間で育てていく。
- ・島田委員：子どもたちは、お弁当を持ってくる。親の愛情を、お弁当を通して感じている。今日のお弁当はどうだったと家の人とのコミュニケーションが生まれる。素晴らしい施策だと思う。家の人子どものために一食のお弁当をつくるのは大切なことである。
- ・村上委員：安全・食についても、PTAが積極的に取り組んでいるが、すべての保護者に広まらない状況もある。学校と家庭がともに、子どもについて考える機会があっても良い。
- ・山田委員：先生には、保護者に対して、率直な意見をもっと言ってもらいたい。そして、保護者には、親としての自覚をもってもらいたい。

[施策の柱4] ・事務局から説明

- ・木村会長：ここは、が多いが。
- ・事務局(大瀧)：個別の指導計画の割合が低下している原因として、専門家チームで巡回相談事業を行っているが、校内で特別支援教育の体制が整備されつつあることから、専門家チームの派遣回数が減少し、個別の指導計画作成を支援する機会が減少したためと考えている。配慮が必要な児童生徒に応じた計画をもとに、実践することが大切である。
- ・木村会長：施策の推進状況を把握する統計データの取り方に問題があるのではないかと。人的配置が進められていることによる成果が見られるような分析も必要である。
- ・植田委員：特別支援教育については、今後とも、推進していただきたい。

[施策の柱 5] ・事務局から説明

- ・佐々木委員：子どもの教育は、情熱のキャッチボール。情熱のある先生のいるクラスは、子どもが成長すると聞いている。校長のリーダーシップのもと、先生が力を発揮している学校は素晴らしい。陽東中の運動会は素晴らしかった。学校の基本は集団行動。「情熱のある学校づくり」が基本だと感じた。
- ・伊藤委員：中学生は、自我の目覚めの中、1日を通して接する大人が先生である。子どもにとって理想となる、魅力のある先生に出会って欲しいという願いがある。
- ・渡部委員：先生には、情熱を持って取り組んで欲しい。教師という仕事にプライドをもってもらいたい。地位なり、給料なり、みんなが憧れるような仕事にして欲しい。これまで学校での取組を聞くと、多大な仕事を行っており、どこまで学校に求めるのか心配になる。
- ・木村会長：学校は、業務の多さで限界にきているのではないかと思う。もっと教育を良くしようと思ったら、地域と一体となって取り組む必要がある。このプランでも重点となっているように、学校、家庭、地域が一体となって、地域の子どもの育てることが望まれる。
- ・地神委員：地域の教育力の違いにより、学校を選べる時代になってきている。学校間の差により、公教育としての機能が果たせないのではないかと心配である。そうならないようお願いしたい。
- ・木村会長：先生方の年齢構成について、保護者より年上の先生ばかりではなく、若い先生の確保など、バランスの良い人的配置をお願いしたい。

[施策の柱 6] ・事務局から説明

- ・木村会長：資料を見ると、カタカナ表記や教育用語が多い。市民に分かりやすい記載をお願いしたい。
- ・佐々木委員：「魅力ある学校づくり地域協議会」では、若い人をスタッフにして、30代、40代の意見を取り入れて欲しい。
- ・木村会長：様々な年代の方から多くの意見を聞くことが必要である。

[施策の柱 7] ・事務局から説明

- ・木村会長：教師用パソコンが全校配置されているが、全国的に見てどうなのか。
- ・事務局(久保)：小さな自治体では導入例があるが、本市と同じ位の規模では、あまり例はないかと思う。

- ・村上委員 : 本校では、研究学校の指定を受け、子どもたちが話し合いを通して、自分の意見や考えを深められるようになるなどの成果が見られている。研究指定を受けるのは素晴らしいが、先生方にとって、負担となる部分もある。研究学校については、学校数を増やすより、研究内容の質的な向上を目指すことが大切である。
- ・事務局(糸川) : 先生方が指導力を高めることは不可欠である。校長先生のリーダーシップのもと、全教員での取組を推進している。
- ・木村会長 : 学校で開催される授業研究会に参加しているが、研究教科や授業公開教科に偏りがある。すべての教科で行ってほしい。
- ・事務局(糸川) : 市としても、教員相互の授業参観を推進しており、分かりやすく楽しい授業を目指したチェックシートなども配付している。

[“いきいき学校” プランの指標の見直し] ・事務局から説明

施策の柱2の「小・中学校でのいじめの発生件数」を、「小・中学校でのいじめの認知件数」に変更するとともに、「小・中学校でのいじめの解消率」を指標に加える。

施策の柱3の「新体力テストの総合評価のA段階（S段階）」に加え、「新体力テストの総合評価のD，E段階」を指標に加える。

施策の柱6の「学校の外部評価を公表している学校の割合」を、「学校の学校関係者評価を公表している学校の割合」に変更する。

- ・木村会長 : 事務局からの提案に、ご意見等はあるか。
- ・山田委員 : 学校からの情報提供が進められているが、学校からのプリントを読まない保護者が増えている。学校からのプリントはすべて読みましょう、という運動を行っていただきたい。
- ・木村会長 : 学校からのプリントについて、読みやすく、適切な量のものを出してほしい。

(2) 「宇都宮市学校教育推進計画」を推進する上で今後取り組むことについて

テーマ「学力向上のための取組について」

- ・木村会長 : テーマについて、事務局から説明願いたい。
- ・事務局から説明
- ・木村会長 : 本市で実施している「学習内容定着度調査」及び国が実施した「全国学力・学習状況調査」における本市の実態及び今後の方策についての説明であった。学力とともに、体力についても二極化の傾向にあり、対策を考えていかなければいけない。

- ・島田委員 : 読書活動を増やしてほしい。読書を通して、豊かな感性、人の心を感じ取る力などを身に付けていく。これまで以上に読書活動を推進して欲しい。学力向上にもつながる。
- ・木村会長 : 子どもは本離れをしていないと受け止めている。読書のよさや大切さを実感できる機会を学校で与えてほしい。
- ・地神委員 : 学校で読書の時間を取らないと、家に帰ると携帯電話などで時間を取られてしまうのではないか。
- ・植田委員 : 「宇都宮市学校教育スタンダード」について、長期的に取り組み、成果をあげて行ってほしい。
- ・木村会長 : 熱心な協議に感謝申し上げます。今回の協議を参考に、今後とも本市学校教育の充実が図られるよう期待する。

閉 会